

知事記者会見の概要

日 時：令和4年1月4日(火) 13:30～14:01

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ7台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 令和4年 年頭のあいさつ
- (2) オミクロン型変異株の確認に係る対応について

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

< 幹事社：読売・日経・YTS >

☆報告事項

県民の皆さん、記者の皆さん、新年明けましておめでとうございます。いよいよ、令和4年の新しい年がスタートいたしました。昨年に続いて、大雪の中での年明けとなりましたので、雪はきなどで大変ご苦勞をされたのではないのでしょうか。雪の事故で被害にあわれた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

まずもって、私のことですけれども、昨年の11月23日に骨折、入院をいたしまして、同月30日に手術を受け、12月28日に退院いたしました。この間、新型コロナ対策や県議会12月定例会などもありましたので、県民の皆様には、多大なるご心配とご迷惑をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。誠に申し訳ありませんでした。

当面は、リハビリで外来通院しながらの公務となりますが、一日も早い全快目指して、体調管理に努めてまいりますのでご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、今年は寅年、「壬寅（みずのえとら）」であります。寅年の中でも今年2022年は、36年に1回しか巡って来ない「五黄の寅（ごおうのとら）」と呼ばれる特別な年なんだそうであります。「壬寅（みずのえとら）」は、「陽気を孕み、春の胎動を助く」、これは冬が厳しいほど、春の芽吹きが生命力にあふれ、華々しく生まれる年になるということだそうでありまして、つまりは冷え込んでいた景気が良くなり始める年ということだそうであります。

昨年、一昨年と2年続けて、世界中が新型コロナウイルス感染症に翻弄されましたが、人類の英知を結集して、ワクチンや経口薬が開発されました。ようやく、パンデミックから抜け出る見通し、言い方を変えれば、コロナと共存できる社会の見通しが出来てくる、そういう明るい希望の年になるのではないかと考えているところです。

本県も新型コロナの感染防止対策と経済対策を進めてから、約2年になりますが、コロナ禍という厳しい冬に耐え、今年こそは県民の皆様が穏やかに過ごせる1年になってほしいと、切に願っておりますし、またそういう明るい年にしなければならないと、決意を新たにしているところでございます。

ここで、明るい話題を幾つか述べてみたいと思います。

まず、昨年の東京2020オリンピック・パラリンピックに続き、今年2月には、北京で冬季オリンピック・パラリンピックが開催されます。既にスケート競技では、本県出身の4名の選手が、出場決定しておりますので大変楽しみであります。ぜひ、県民の皆さん、特に子供たちに、大きな夢と希望を与えて頂きたいと思っておりますし、日本中、世界中に元気と感動を届けて頂くことを期待しております。

次に、昨年は、霜や雹で大きな被害を受けた、本県農産物のスターとも言えるさくらんぼですが、いよいよ今年は大玉新品種の「やまがた紅王」が、プレデビューいたします。つやのある鮮やかな紅色で、500円硬貨より大きい3Lから4Lが中心の大玉であり

ます。さくらんぼ県山形の将来を担う期待の大型新人として、国内外の多くの人々の心をつかむように育ててほしいと願っております。山形発の新しいブランドとなるよう、県民の皆さん、一緒に盛り上げてまいりましょう。

また、8月10日、11日の2日間、北海道・東北地方では初となる、第6回「山の日全国大会」が、本県の蔵王を主会場に開催されます。

「山を想い、山を愛し、山と生きる。～樹氷輝く蔵王のやまがたから、未来へ～」を大会テーマに、県内外の山を愛する多くの皆様に向けて、本県の奥深い山の魅力や精神文化、さらには山を支える人々の営みや山が育む恵みなどを未来に向けて広く発信し、さらなる山岳観光の振興や自然環境の保全につながる、意義深い大会にしてまいりたいと考えております。

さらに、長い間本県の課題でありました、高速交通網ではありますが、令和4年中に、東北中央自動車道の、東根から尾花沢間が全線開通する予定です。これにより、新庄市まで全国的な高速交通ネットワークとつながりますので、観光誘客の促進や交流人口の拡大、産業振興などに大いに寄与するものと期待しているところです。こうした交通インフラを最大限に活かして、県政発展につなげてまいります。また、4月から6月までの3か月間は、南東北3県の一大大観光キャンペーンも予定されております。

こういった明るい話題もあるんですけども、なんと申しましても、目の前の喫緊の課題は、新型コロナ対応であると思います。一昨年、昨年に引き続き、3年目のコロナ対応となります。

まずは、県民の皆様の命と健康を守るために、最前線で戦っている医療従事者の皆様、県民生活を支えて頂いている保育・介護などの福祉サービスや運送業などの事業者の皆様、県内の経済・社会活動を支えて頂いている皆様、そして感染拡大防止にご協力頂いている全ての県民・事業者の皆様に、改めて感謝を申し上げたいと思います。皆様、本当にありがとうございます。

折しも、昨年の末には、県内でもオミクロン株が確認されましたし、最近、全国的に新規感染者数が増加傾向にありますから、いよいよ第6波の襲来が目前に迫っている感があります。

県民の皆さんには、これまでもさまざまなコロナ対策に、ご協力・ご尽力頂いておりますが、既にワクチン接種の3回目が始まっております。引き続き、県民の皆様・市町村・事業者の皆様と一丸となって、感染拡大防止と医療提供体制の確保に努めてまいりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

一方で、コロナ禍によりダメージを受けた、本県経済の再生を図るためには、消費の喚起や誘客促進に引き続き取り組むとともに、ポストコロナを見据えた施策を展開することが肝要であると思います。新型コロナの感染拡大とその長期化により、マイナスの影響が

数多くある一方で、本県が持続的に発展・成長していくうえで、プラスとなり得る変化も生まれてきております。

ウィズコロナの対応として、感染拡大防止と経済活動の両立にしっかりと取り組むとともに、ポストコロナに向けて顕在化した課題や新たな成長分野へのチャレンジにも、迅速かつ柔軟に対応していくことが重要だと考えております。

こうしたことから、令和4年の県政運営にあたりましては、5つの視点を重視してまいります。具体的に申し上げますと、まず1点目は、若年女性の就業環境の整備や賃金の向上など「子育てするなら山形県」、2つ目には、安定的な医療・介護提供体制の確保など「健康長寿日本一」、そして3つ目は、デジタル社会への対応など「県民幸せデジタル化」、4点目は、スタートアップ支援や産業付加価値化などによる「一人当たり県民所得の向上」、そして5点目が、カーボンニュートラル実現に向けた取組みなどによる「やまがた強靱化」であります。以上5つの視点到重点的に取り組んでまいります。

これらにより、コロナ克服・山形経済再生を実現するとともに、その教訓を活かしながら、リスクや変化に柔軟に対応できる強靱性の高い社会、住み続けたい・訪れたいと思える魅力ある地域、そして誰一人取り残されることのない持続可能な山形県を目指してまいりますので、県民の皆様にはよろしくお願い申し上げます。

以上、年頭にあたっての所感を申し上げます。

令和4年、2022年が、山形県にとりまして飛躍の年となり、また、県民の皆様にとりまして喜びと希望に満ちあふれた、素晴らしい年となりますことを切に願っております。

まだまだ厳しい寒さが続きます。雪の事故も心配であります。県民の皆さん、記者の皆さんには、くれぐれもご自愛くださるようお願いいたします。

それでは、本年もどうぞよろしくようお願いいたします。

続きまして、オミクロン型変異株の確認に係る対応について申し上げます。

皆様、既にもうご案内でありますけれども、昨年末に、本県内で1例目となるオミクロン型変異株の感染が確認されました。感染者につきましては、渡航歴などはございませんので、市中感染の疑いも考えられます。

また、年末年始の帰省や旅行などによる人流も増加しておりますので、今後、感染拡大の可能性が心配されるところです。

県民の皆様には、ワクチンを接種した方も含め、飛沫防止効果の高い不織布マスクの正しい着用や、手洗い、手指消毒、体調管理、三密回避、換気といった基本的な感染防止対策を徹底してくださるようお願いいたします。

県では、オミクロン株による感染拡大防止のために、希望する県民の方に無料のPCR等検査を実施することといたします。この無料検査ですが、ワクチン接種の有無に関わらず、感染リスク等が高い環境にあるなどの理由により、感染している可能性に不安を抱える無

症状の県民の方を対象として実施するものであります。このことにつきましては、昨日までに、政府との協議を終えたところであります。

まずは明日、1月5日から県立河北病院のPCR自主検査センターで検査を開始いたします。もう予約は始まっていると聞いています。なお、河北病院では、対応できる人数に限られます。1日約30人と聞いています。人数に限られますので、民間検査所や薬局など、県内複数の施設でPCR検査や抗原定性検査の検査拠点を、近日中に速やかに拡充してまいります。開設状況は、順次お知らせしてまいりますので、県民の皆様には、感染に不安がある場合などに、ぜひ検査を受けてくださいますようお願いいたします。近日中というのは今週中と聞いておりますし、また大体県内20か所程度になるかと思われまます。

それから、これからこういうシーズンで、県内各地で成人式も行われる予定と聞いておりますが、くれぐれも感染防止対策、これを徹底して頂きながら、実施して頂きますようお願いいたします。

県としましては、県民の皆様の命と健康を守るため、引き続き全力で感染拡大防止に努めてまいります。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

山形新聞の田中です。明けましておめでとうございます。退院おめでとうございます。オミクロン株の対応で知事の言及があったことで、ちょっと教えて頂ければと思うのですが、昨年末、山形の方で県内で1例目と、全国的にもオミクロン株の置換えが進んでいるんじゃないかと言われている、知事も先ほども第6波が迫っているとお話がありました。オミクロン株への対応も含めて、第6波への備えも含めて、まだ県内では拡大していない状況ですけれども、早め早めに何か対応を考えておられるとか、今の例えば会食の基準もありますし、成人式も控えているということもありますので、その注意喚起、感染抑止に向けて何かお考えになっていることがあれば教えて頂ければと思います。

知事

そうですね、県としましては、既に、医療提供体制、そのことについて自治体の病院などにもご協力して頂きながら、病床拡充ということもしております。また、宿泊施設、庄内と内陸に準備してございます。それから酸素ステーション、そういったことも、いつでも開設できるように準備もしております。また今回、オミクロン株が1例確認されたということで、PCRの無料検査、これを実施する段取りをしっかりと進めておりますので、いろいろなイベントとか行事が行われると思いますけれども、そういった際の無料検査をしっかりと活用して頂ければいいのかなと思っています。やはりでき得る限り早期発見、早期療養ということが、感染拡大を防ぐ、そのことになるのではないかと考えておりますので、しっかりとした基本的な感染防止対策をこれまで以上に徹底して頂くということと、この無料のPCR検査、抗原検査も含んでおりますので、これを活用して頂いて、さまざまなイ

ベントなども行って頂ければと思っております。

記者

ありがとうございます。もう1点教えて頂きたいのが、職員に向けての年頭訓示が午前中にありましたし、先ほども言及がありました、いわゆるポストコロナを見据えたチャレンジ、「失敗を恐れずに」という職員の方への訓示もありました。今年、5つの視点を重視するということがありましたけれども、知事として挑戦というところを、どのように職員の方も含めて県民も含めて、そういう失敗を恐れない、挑んでいくという姿勢をどういうふうに促していかれるおつもりなのか教えて頂ければと。

知事

はい。やはりこれまでは、ウィズコロナということで混沌としていた社会と言いますか、そういったことに対応してきていると思います。職員の皆さんもそうでありますし、本当に県民の皆さんもそうだと思います。ですが、これからは、やはりその混沌とした中にも希望の光が見えてきていると言いますか、やはり、前向きに進んでいかないと、抜け出てそしてポストコロナでどうやっていくか、その模索がもう始まっているんだと思います。事業者の皆様には、既にデジタルトランスフォーメーションに取り組んでおられる方とか、会社とか、そういった企業さんもいらっしゃいますし、やっぱり地方として、このデジタル化に遅れてはならないと言いますか、生産活動だけでなく、県民生活も、いろいろな場面でやはりデジタル化というものをしっかりと進めていかなければならないという思いもありまして、これまで行ってこなかったと言いますか、そういったこともやはり、新しい芽というものを探して、今危機の状況ですけれども、その中には危険とチャンス・機会、両方ありますので、やはり新しい山形県の未来を模索していかなければいけないという思いで職員の皆さんには、新しいことに挑戦してほしい、失敗を恐れずに挑戦してほしいということを申し上げました。

記者

河北新報の原口と申します。明けましておめでとうございます。ご退院おめでとうございます。入院されていたということで、ちょっとお話をお伺いしたかったのですが、1か月半ほど公務を離れて、病室からのいろいろな県政への対応ということがあったかと思いますが、離れて公務にあたるということでどういう思いで公務をこなしていらっしゃったのか、あと職員にはどういうことを、どういう思いで対応されていたのかということをお教えしてもらいたかったのですが。

知事

はい。そうですね、本当に動けない状態というのが結構続きましたので、ある意味では最初の頃は、これはもう何と言いますか、もがいても仕方がないという思いで、しっかり

と腰を据えてと言いますか、焦らないで対処しようというようなこともありましたけれども、やはり非常に気になって気になって仕方がないと言いますか、毎日のように副知事やそれから担当の幹部の皆さんと打ち合わせなども行っておりました。そして、そのうちに水際対策をしっかりしていたにもかかわらず、国内でもオミクロン株が確認され、また、本県は昨年末に確認されましたけれども、それまでも濃厚接触者ということで公表はしておりませんけれども、はっきり確認されてから公表するというお約束のようでありましたけれども、やはり数人の方が濃厚接触者ということで、私のところには連絡も来ておりました、2回3回とずっと検査して陰性だったというようなことで、ほっとしたという状況が続きました。

本当に居ても立っても居られないというような思いがだんだん募ってまいりまして、全快するまで入院しているというのも1つの方法だったのでありますけれども、とてもとても居ても立っても居られないという気持ちになりまして、早めに退院をさせて頂きまして、まずとにかく登庁して職員の皆さんとリアルでお会いをしながら打ち合わせをさせて頂きながら、しっかりと第6波、そういったことを迎え撃たなければならないというような思いで対応させて頂きました。

記者

今日、こういう形で公務に復帰されたということですがけれども、今の思いをちょっとお伺いしたいのですけれども。

知事

そうですね。本当に1か月半位ぶりで登庁いたしました。リモートワークはさせて頂いておりましたけれども、リアルでというのはまた違いまして、味わい深いものがあると言いますか、やっぱりとちょっと画面を通してというのとまた違うものがあるなということを実感しております。また、本当に記者の皆さん方にも、記者会見も何回もしないでしまっ大変申し訳なかったと思っております。

こうやって皆さんに、県民の皆さんへのいろいろな、情報等といったことをお知らせして頂ける、PRして頂くということをお願いできるというのは本当にありがたいことだなというふうに思っております。まず本当に1日1日感謝しながら過ごしてきましたけれども、また気を奮い立たせてしっかりとコロナ克服のために全力で県政に邁進したいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

記者

NHKの金敷です。明けましておめでとうございます。また退院おめでとうございます。この年末年始なのですが、1年前と比べてだいぶ人流が戻ってきたというふうに見受けられます。具体的な数字はまだ出ていないと思いますが、知事はこの年末年始を振り返ってというのもおかしいですけど、どんなふうに見られたか、またこのように人流が戻って

きて、おっしゃっていましたが、コロナがまた拡大の懸念もあります。今後、経済対策等も踏まえてどのように取り組んでいきたいかということをお聞きしたいと思います。

知事

そうですね。企業さんのお話を年末年始にチラッとお聞きしたり、また初詣の状況というものも関係者の方からお聞きしたりしますと、昨年よりも増えたと。ただコロナ前のようには戻っていないけれども、昨年よりは増えているということをお聞きしております。ですから、少しは良くなっていると思いますし、やっぱり帰省したり、そういった方も昨年よりは多いと。それから山形新幹線ですね、そういった混み具合といったこともお聞きしましたけれども、やはり昨年よりは増えているということで、やはり人流は増加しているのだなと思っております。そのこと自体は私は、2年ぶりに故郷に帰ってこられたり、また故郷に帰られるというようなことで本当にコロナ前に戻ってはいないけれども、ある程度感染防止対策をしっかりとしながら移動というのも行っておられるということで、人間らしい生活に少し戻っているかなと思っております。ただその結果としてはこれからいろいろコロナの感染ということでは、これから分かってくるのかなと思っております。それはそれで県としてしっかりと、これまで以上に濃厚接触者を特定と言いますか、ウイルスを追いつまわすというようなことをやっていきたいと思っておりますし、無料のPCR検査ということも始まりますので、ぜひそういったことを大いに活用されて感染拡大に至らないうちに、収束するようなそういった方向に力を向けて行ければなと思っております。

これは県民の皆さんのご協力がないとできません。県民の皆様、事業者の皆様が、そういう思いで、気軽にPCR検査を受けて頂ければと思っております。強制ではないんですけれども、やはりうつさない、うつらないというような思いで無料のPCR検査を活用して頂いて、できる限り普段通りの生活に少しでも近づけていければいいのかなと思っております。

記者

朝日新聞、三宅です。繰り返しになりますが、ご退院おめでとうございます。ご入院中の話、先ほどちょっと出ましたけれども、因らざる副知事就任の後ということでございましてですね。

入院していらっしゃる間、副知事のありがたみとか、そんなことを感じることもあったり、もしくは副知事不在のまま、こういう事態になっていたらどうなっていたらどうかというようなことについて、思いを致すようなことがあったのであれば教えてください。

知事

はい。本当に副知事がいて良かったなというふうに思いました。その一言に尽きますね。もしいなかったと考えると、その時はその時です。総務部長を筆頭に部長たちにもリモートワークもしながら、必死でやってきたというふうに思いますけれども、もし

なかったらと考えるくもないくらい、ちょっと、多くの皆さんに、やはりご心配とか、そういったご迷惑をお掛けしてしまったなという、本当に申し訳ない思いでいっぱいです。それにつけても副知事は絶対必要だということですね、もう本当に痛感をいたしました。